土岐市公の施設における指定管理者選定委員会　議事録

日時　：　令和8年10月15日（木）　9時15分～11時00分

場所　：　土岐市役所　3階　大会議室3A

施設　：【土岐市多機能型子育て支援拠点施設】

委員　：　太田幸治、松岡剛生、山田利彦、鷲見直人、奥田勝利、小栗渉（敬称略）

区　分	発言者	内　　容
開会 委嘱状交付	事務局	これより土岐市公の施設における指定管理者選定委員会を始める。本日の進行は委員長選出まで、事務局が進めさせていただく。 委嘱状の交付。本来なら市長が参り委嘱状をお渡しすべきだが、所用によりお手元に配布させていただいた。委員の皆様のご紹介はお手元の委員名簿にてかえさせていただく。
指定管理者制度及び施設の概要の説明	事務局	指定管理者制度及び施設の概要について説明。
委員長選出	事務局	次に委員長の選任に移る。委員会の設置要綱では委員長は委員の互選によることとなっているが、何か意見はあるか。
	事務局	ご意見がないため、「事務局一任」でよろしいか。 事務局としては学識経験者の太田委員にお願いしたいがどうか。
	委員	「異議なし」
	事務局	それでは、委員長は太田委員に決定し、以降の進行をお願いする。
土岐市多機能型子育て支援拠点施設に関する議事		
議　　事		
1．申請書類について意見交換	委員長	申請者の申請書類を見ていただき、内容について意見をいただきたい。
	委員	財務内容について、特定非営利活動法人のため、規模を追求するところではない。総資産における自己資本比率が70%を超えており、現預金も半分を占めているため、高い水準であり、安全性は高いと言える。
	委員長	ただいまの意見を参考にして、これから行うプレゼンテーションの後、採点をお願いしたい。
2．プレゼンテーションの進め方について	事務局	プレゼンテーションを20分行い、その後15分程度の質疑時間を設ける。 採点方法については、プレゼンテーション及び終了後の意見交換後、審査表に評価を記入いただく。申請者が1者のため、合計点が満点の6割である360点を超えた場合、採用とする。

区　分	発言者	内　　容
3. 申請者によるプレゼンテーション		
質疑応答		
質疑	委員	対策マニュアルが整備されているが、今までの運営の中で不審者などが現れたことはあったか。
	申請者	イオンの中であり、さらに奥まった場所でもあることから、不審者など大きな事件や事故はなどはない。騒ぎになったのは、相談に来ていた親子に虐待のような様子が見られたことから、職員が介入したことがある。外からの不審者などはない。
	委員	カスハラの対応など、マニュアルに載っていないようなものも記載しておくことで、新しい職員などにも役立つため考えて欲しい。また、災害対策の部分で山火事や断水などが起こった際の親子への声掛けについてもマニュアル化しておくと良い。国からの施策などは次々と出ているため、それを勉強するようなものもあると良いと考える。
	申請者	カスハラ対策については、親が依存体質にならないよう注意をしている。ケース会議などで共有して距離感なども大切にして組織として対応するようしている。防災マニュアルについて、防災士が組織にいるため、検討していきたいと思う。国の施策などに対する勉強会などに積極的に参加しているため、この取組は続けていきたい。
	委員	職員の配置について、現在、色んな職種で人材不足が言われている中で、人件費の支出を8割とするくらい人材を重視しているが、人材確保や人材育成について特に力を入れている取組は何か。
	申請者	保育に関わる人材については、どこも大変であるのは伺っている。その中で、現在事業所の職員の8割が保育士の資格を持っている。潜在保育士という保育士の資格を持っているが、保育園などで勤務するのは躊躇する人に対し、短時間で働けるような仕組みを組織内で作った。現在登録制で40名の登録がある。この人たちには、託児の仕事などを依頼したり、ファミリーサポート事業の仕事を行ってもらったりしている。この人たちが、自身の子育てが終了した後に、長く働きたいと考えた時、保育園で働くなどに繋がっている。なお、現在の組織における6割から7割くらいはこの登録制度から就職している人になっている。こういった組織体制を持ち続けることが、人材確保に繋がると考えている。登録については、講演会などでも周知しており、どんどん輪が広がっていけば良いと思っている。
	委員	ファミリーサポートセンター（以下ファミサポと表記）について、サポーターの数ではなく、相互扶助の人材を育成していくということはすごく大事であり、自分がやってもらえたから、次は自分がやってあげるというような好循環をどう広げるかが大事。公的なサービスは整備されるが、地域で支え合うという社会を作っていくことに関しては、ファミサポの展開次第で変わってくる。現在、98人が育っていて、次の5年間でそういった関係の人をどのあたりまで向上させたいなどの想いはあるか。
	申請者	組織としても、この町の子どもはこの町の大人が救うべきという考えがあり、地域の人をいかに巻き込んでいくのかということが大事と考えている。ファミサポは相互扶助が基本であり、助けられた経験が無ければ、自分がという考えには至らないため、まずはファミサポを使ってもらうということが必要。そのために、敷居を低くすることが大事と考え、訪問でファミサポの登録をお願いしたりした。ファミサポの一番の抵抗は自宅で子どもたちを見ることということがあったため、自宅ではなく、ときめっくで見てもらうというやり方を行ったら、登録者が増えた。今後も、ときめっくでファミサポが使えるということを広げながら、使って助けられた人たちが、両方会員という制度で助ける側にもなってもらう。両方会員を増やしていくことで、将来の援助に回るという循環を作っていきたい。

区　分	発言者	内　　容
	委員	組織として、かなり事業展開をしているが、NPO法人として課題は見えているか。
	申請者	多様な働き方が広がっている中で、1人の管理者が見るのには限界がある。そのため、オーナー制で年俸で雇っていくことを考えている。例えばリユース事業では、その人がその事業の社長である意識で、独立財産を持ち、独り立ちできるようにしていくことが大事だと思う。今は、事業に関しては長けていても、経営に関して足りないこともあり、サポートを入れているが、経営で収支が合うなどの視点を一人一人が持つことが大事だと考える。それがなければ、事業が広がるだけで、内容は散漫になってしまうと思っている。経営感覚を身につけた職員の育成が課題だと考えている。将来的には独立も視野に進めていきたい。
	委員	これからの5年について、多機能連携支援拠点への意向の考えを話されたが、連携において、ときめっくとして活動内容として変わっていくことはあるのか。
	申請者	ときめっくは最大の入り口であり、そこから各事業への連携があるため、ときめっくとしての活動に変化はないと考える。
	委員	ときめっくにおいて、土岐市以外の人も受け入れているところだが、土岐市の子育て世帯の特徴をどういう風に分析しているか。また、現在、どういう支援が求められているのかを教えてほしい。
	申請者	土岐市の最近の特徴は、外国籍が増えてきてデリケートな課題が多くなっていることが挙げられる。現在、8市と連携しているが、土岐市は課題と思われる親子に対しての反応が早い。また、外国籍についても、連携を取って対応できていると思っている。 家庭支援事業を国が重要視しており、世帯訪問支援事業や世帯形成支援事業、子育て短期支援事業の3つがあるが、どんな人でも予防的に誰でも使って良いというような方向に国もシフトしている。どんな人たちにもハイリスクになる可能性があることの想定をしており、早い段階から色々な親子にアプローチすることが大事であり、虐待の早期発見などにも繋がっていると思われる。
	委員	多機能連携型という中の、連携というのはどういうことを考えているか。
	申請者	2つ考えており、法人内事業の連携と他の市町村との連携。他の市町村との連携は、東濃5市や可児市との合同の研修会を企画したりしている。行政における子育て支援のサービスの偏在化を防ぎ、行政間の標準化をすることで、同じようなクオリティの行政サービスが展開できるようにしたいと考えている。
4. 採点	（点数記入、集計）	
5. 結果発表	委員長	合計点が468点。満点の6割の360点を超えたため、候補者として採用とする。
6. 委員長講評	委員長	今後とも、自分たちの強みを最大限に生かしながら運営していかれることを期待する。
6. 今後の予定について	事務局	今後の予定について ①本日の選定結果を市長に報告する。 ②選定結果については、土岐市ホームページにて公表する。 ③12月議会において管理者の指定の議案を上程し、議決後選定された団体と協定書を結ぶ運びとなる。 ④委員の任期については、指定管理者が管理運営を開始する日までとなっている。